

「幼児期から児童期への支援を継続する幼小連携」

日時	平成29年7月25日(火)	受講者	36名
目的	幼児の基本的な発達と障がいの理解を基に、幼児、児童個々の支援の在り方、幼小連携に関する研修を行い、資質の向上を図る。		
講義	1「ニーズに応じた幼児への支援」	特別支援教育センター 指導主事 富村 和哉	
実践発表	「早期からの支援の継続と充実」	北会津こどもの村幼保園 園長 最上 学 氏	
講義	2「支援を継続する幼小連携」	特別支援教育センター 指導主事 渡部 和幸	
演習	「支援を継続するために大切なこと」	特別支援教育センター 主任指導主事・指導主事	
<p><講義1></p> <p>「ニーズに応じた幼児への支援」では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から幼児の必要なニーズを考えました。そのことに対して、どう指導・支援していくかを研修者同士で互いに話し合いながら学びました。</p>  <p><講義2></p> <p>最新の特別支援教育の動向を踏まえながら、合理的配慮について、支援が必要な幼児児童の配慮を3観点11項目に整理して考えました。また、幼小の連携で、何を伝え、どのように連携するかを具体例を基に確認しました。</p>	<p><実践発表></p> <p>「支援を継続する幼小連携」</p> <p>北会津こどもの村幼保園の最上学園長から、実際の園内での取り組みや地域における早期からの支援について具体的にお話をいただきました。また、忙しい中で、どう個別の教育支援計画を作成していくかなど、現場に即したお話もいただきました。「方法ではなく、子どもをまんなかにしよう、その気持ちが大切。」と支援を継続する際の大切な考え方を教えていただきました。</p> 		
<p><演習></p> <p>幼稚園から小学校に引き継ぐ事例をグループ内で一つ決め、支援内容メモを参考にしながら、引き継ぎ内容を協議し、実際に小学校の先生に引き継ぐロールプレイを行いました。時間がない中で、どうポイントを絞って話し合っていくか、それを3観点11項目で整理し、小学校の先生役に引き継ぐことができました。</p> <p>必要な情報を整理する力、話し合いをコーディネートする力、時間内に簡潔にまとめて伝えていく力等、演習を通して幼小連携に必要な力を再確認し、それぞれの立場から引き継ぐべき内容について活発に意見を出し、話し合いました。</p> 			
受講者の感想			
<p>○演習の時間の設定などは、現場の中でケース会を行うことを想定しての設定になっていて、緊張感がありよかった。(特別支援学校)</p> <p>○発達を踏まえて、かかわることの大切さがわかった。(小学校)</p> <p>○就学時の引継ぎについて、実際に伝える側、聞く側となって体験できたので、どのようなことを聞かれるのか、何を留意しておけば良いかがわかり良かったです。(保育所・幼稚園)</p> <p>○普段、あまりかかわることの少ない、小学校の先生、支援学校の先生と話をすることができ、いろいろな見方、視点があることに気づき学ぶことができました。(保育所・幼稚園)</p> <p>○「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」が参考になりました。その上で、引き継ぎのロールプレイもでき、よい経験となりました。今年度、特別支援教育コーディネーターとしてかかわる時にも、今日の内容がとても役立ちます。考えや思いをお互いが知っていなければいけないことも明確になったので、自分が行う時に役立てていきたい。(小学校)</p> <p>○ケース会議の進め方が勉強になった。いろいろな意見のポイントを押さえながら、決められた時間内にまとめていくためには、いろいろな下準備、学習が必要だと思った。(特別支援学校)</p>			